

11 期生 合格者インタビュー

東京大学 文系

— Part 1 —

おおみや ゆう か
大宮 優香さん (文Ⅰ・日比谷)

くまがい たか え
熊谷 姿慧さん (文Ⅰ・桜蔭)

しらいし まさひろ
白石 昌大さん (文Ⅱ・芝)

なが い たかひこ
長井 孝彦さん (文Ⅱ・海城)

なかじま れ お
中島 礼朗さん (文Ⅱ・栄光学園)

にのみや よう じろう
二宮 陽二郎さん (文Ⅲ・麻布)

ふじかわ つかさ
藤川 司さん (文Ⅰ・海城)

グノは、集中力を保って主体的に聞ける授業だったのですごく気に入っていました。授業は先生が生徒とやり取りしながら、私たちを巻き込んで進んでいくので、自分が参加していると実感できました。

熊谷 姿慧さん (文Ⅰ・桜蔭)

目次

- 入塾のきっかけ…………… P1
- グノーブルの評判…………… P2
- グノーブルの英語…………… P2
- 英語の勉強法…………… P3
- グノーブルの数学…………… P5
- グノーブルの国語…………… P6
- グノーブルの先生たち…………… P6
- 後輩へのメッセージ…………… P7

※●は、この PDF フルバージョンのみの掲載項目

入塾のきっかけ

藤川：僕は中1から通っていました。友人のお母さんが、グノを勧めてくれたことが入塾のきっかけです。自分で塾選びをしたわけではなく、親が決めての入塾でした。英語はスタートダッシュ講座*から、数学は中3から受講しました。

*新中1生対象の講座 (2～3月に開講)。

長井：僕も藤川君と一緒に、中1からグノに入りました。自分で塾選びをしていないというのも同じです。当時、母がいくつかの塾の説明会に参加し、グノの説明会で中山先生の話聞いて、「ここに子どもを入れたいな」と思ったそうです。

はじめは英語だけ通うつもりだったのですが、スタートダッシュ講座に参加してみたら、^{おだ} 櫻田先生がとても面白くて、数学も通うことにしました。英語と数学をグノで中1からずっと続けました。グノが好きだったので、「グノを辞めよう」とか「塾を変えよう」とか思ったことは一度もありません。

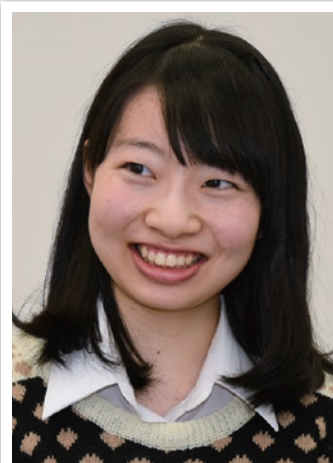
中島：僕は、中3の冬にいくつかの塾を自分で調べました。授業にも足を運んで比較しました。中3から高3まで通うことを前提に考えていたので、「自分がどれだけその塾を好きになれるか」が基準でした。

候補の中でも、グノは授業の密度が濃くて、時間が短く感じられました。初回の授業ですぐに名前を覚えていただけたのもうれしかったです。「これなら4年間受け続けられる」と思って、グノへの入塾を決めました。

僕は横浜に住んでいるので、グノが一番遠い検討先でした。ただ、僕には東京に憧れもあったので(笑)、「東京まで行ってみようかな」と思って距離は気にしませんでした。親も「交通費も大丈夫だよ」と言ってくれたので甘えることにしました。

白石：高2の最初、同じ学校の仲の良い友達がラッシュのようにグノに入ったのがきっかけで、僕も講習からグノに入りました。その頃は、「英語で有名な塾」という程度しか知りませんでした。

以前、家の近くの大手塾に通っていたことがありましたが、部活が忙しくて予習ができず、予習前提の授業からは得られるものがほとんどありませんでした。授業中に演習をするグノの方針はとても



大宮 優香さん (文Ⅰ・日比谷)



熊谷 姿慧さん (文Ⅰ・桜蔭)

気に入りました。

熊谷：私は、高2で冬期講習を体験して、そのまま入塾しました。先生方がすぐに名前を覚えてくださったことが決め手でした。講習には一人で参加したので不安でしたが、すぐにクラスの一員として参加できる雰囲気だったのがとてもうれしかったです。

その時期、他塾の授業にも参加してみましたが、先生が高圧的だったり距離感があつたりして馴染めませんでした。グノの先生方は優しく距離が近いので、私には合っていました。

グノには友達が何人か通っていましたし、インターネットでもいい評判ばかりです。入塾に不安はありませんでした。

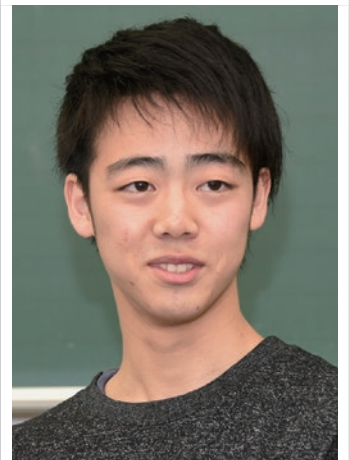
大宮：私も、熊谷さんと同じで、高2の冬にグノに入りました。高2までは別の塾で英語の講座を受講していました。でも、高3の英語の講座を他の科目との兼ね合いで受けられなくなったんです。英語は得意だという意識があつたので、英語に強い塾を探しました。

グノに通っていた知り合いもいて、その人からグノのレベルの高さを聞いたことも決め手になりました。

実際に冬期講習を受けたら、噂通りのレベルに感動しました。自分では英語が得意なつもりでしたが、グノには自分よりできる人がたくさんいたのです。もちろん先生のレベルも高く刺激的でした。

二宮：僕の場合はちょっと特殊です。高校3年の夏から1年間アメリカに留学していました。もともとアメリカの大学に進学する予定でしたが、親の勧めもあって東大を受けることになったんです。

帰国して、すでに東大に合格していた知り合いに塾選びの相談をしました。「英語が喋れて、面白い英語に触れたいなら、グノがいいよ」と元グノ生たちに勧められました。受験本番まで半年間しかなかったのに、グノの方針やカリキュラムも調べた上で、英語に加えて、数学と国語も夏期講習に参加して、そのまま最後まで通い続けました。



白石 昌大さん (文Ⅱ・芝)



長井 孝彦さん (文Ⅱ・海城)

グノーブルの評判

大宮：日比谷には、グノ生はあまりいなかったの、学校ではグノの話は聞いたことはありませんでした。

長井：海城でもグノは少数派でした。大手予備校に入る人が多かったからです。

藤川：僕らの学校からグノは近いんです。だから、もっとグノ生がいてもいいと思いますけど。

熊谷：入塾前は身近にグノに入っている友達がなかったので、グノの評判は耳にしていませんでした。でも、入ってからは、グノの友達といつもグノの話をしていました。授業中に先生がしていた話をもとに会話が盛り上がったりして、皆で楽しく通っていました。

中島：栄光では、僕の学年にグノ生が6、7人いました。彼らの評判はとても良かったですね。全員英語の実力がついて、「1年でこれだけ伸びた」というような話も出ていて、グノに感謝していました。

二宮：麻布でも、グノの評判は非常に良かったです。グノに通っていた人たちは全員、「教材がいい」とか「英語が面白い」とか絶賛していましたね。

白石：芝では、グノにお世話になっている人が多くて、僕の学年だけでなく、先輩や後輩にもグノ生がたくさんいました。そのせいで、他塾に通う人たちの間でもグノが話題になっていました。

グノーブルの英語

二宮：僕は、留学していたので、文章を読むスピードや理解には最初から問題ありませんでした。でも、「問題に対してどう答えるか」や「要約や和訳にどう対処するか」が全然分かっていませんでした。グノに通い始めた当初は、「分かっているんだけど解答になっていない」という状況でした。留学中は英語と日本語の変換をする必要がなかったの、日本語が絡む問題だけ異様に正答率が低かったですね。要約の点数も全然上がらなくて苦労しました。

グノの授業は、書かれている英文内容に密着して、語順のまま、英文の展開のまま丁寧に解説されていきます。その中で先生が「適当に読んで『分かってます』みたいなのは正しい解釈とは言えない」とおっしゃっていました。先生のおっしゃる通り、「英文の構成をどう読み取って、どこからどの程度情報を引っ張ってきてまとめるか」という問題への対処法を基礎から忠実に学べたので、とても助かりました。

熊谷：私も、高1から高2の夏に留学していたので、英語を話したり聞いたりとはもともとできていました。でも、日常で使う英語と受験で読んだり書いたりする英語はかなり違います。文法などの基礎ができていなかった私ですが、グノの授業は、押し付けがましい形で適度に文法や構文を補ってくれたので、無理なく文法も習得できました。

それから、演習して解説という授業形式は、集中力を維持できて飽きませんでしたし、グノで扱う英文は、いい意味で塾らしくありません。ノーベル賞を受賞したオートファジーや、社会問題になったタックスヘイブンの話題も扱いました。題材だけでも好奇心を刺激されますし、先生の解説が分かりやすくて深いので、どんどん引き込まれました。

二宮：文法の基礎ができていなかったのは僕も同じです。しかも、帰国後、「おまえは帰国生だから、文法で点をとれない」といろいろな人たちから脅され、自信を失っていました。

でも、グノの文法のクラスでは、文法用語が分からない僕でもなじみやすかったです。文法事項だけを取り上げていくのではなくて、英文を読みながら英文の中で使われている文法が解説されていくというスタイルが良かったと思います。

中島：僕は最初の頃、学校の授業を真面目に受けていました。だから、学校で習った文法はできていました。でも、中3あたりから授業の中で難しい文法用語が使われるようになってきて、「そんなのは覚えなくていいだろう」と思っているうちに、学校の授業も理解できなくなってきて、そこから英語への苦手意識が芽生えました。

一方、グノの授業では、難しい文法用語はほとんど使いません。文法用語を使って解説することよりも、英文を前から読んで解釈していくことが授業の中心で、そのやり方が僕には合っていました。

「この読み方だと速く読めるし、ネイティブの人みたいでかっこいい」と思って、グノの英語にどっぷり浸かりました。「文法用語を使つての説明より、どんどん読んでいくのが言語学習のはずだ」と、納得しながら勉強できました。

お陰で、英文をスラスラ読めるようになりました。「グノの英語は将来につながる」と、最後まで信じてつていくことができました。

白石：僕も中島君に同感です。

僕は、グノに入る前、大手予備校に通っていました。そこでは、構文をカギカッコで括って後ろから訳すことをやらされて、英語に拒否反応が出ていたんです。

一方、グノは前からどんどん解釈していく読み方を推奨するので、「前から解釈してはいけない」というそれまでの押し付けを捨てられました。英語を英語らしく教えてくれるグノのお陰で、英語が順調に伸びました。

大宮：グノに入る前は、日本のガチガチ英語に捕らわれていて、英文を見たら文法を気にしていました。グノに入って「前から読む」ことを意識するようになったら、英文を読むスピードが上がりました。英文を1回読んだだけで主旨や展開がつかめて概要が理解できるようになったのは大きかったと思います。グノでは面白い英文にたくさん触れられたので、前から読めるようになるのにも、それほど苦労はありませんでした。

藤川：僕は中1からグノに通っていましたが、最初の4年間はグノの授業を聞くだけでした。真剣に英語の勉強に取り組み始めたのは高2からです。ずっとα1だったクラスが高2で初めてα2に落ちて、「これはやばい」と危機感を持ったんです。

実は、僕は長井君とクラブが一緒で、高2、高3ではクラスも一緒でした。長井君は英語ができるので、彼と自分とを比較して「何をすべきか」を考えてみました。「高3まではあと2年足らずだけど、中1から高1までのグノのテキストを一からやり直せば、長井君との間にある差を短期間で埋められる」と信じて、急ピッチでやり直しました。そして、気づいたら英語力が上がっていたのです。

やり直しの中で一番大きかったのは音読の習慣化です。音読を続けていたら高2の冬にはαに上がって、それ以降クラス落ちしませんでした。

※高2時の通常授業は、α（最上位）、α1、α2、α3、α4の設定で始まり、6月以降α5増設。

長井：藤川君が言うほど、僕は英語ができたかどうかは分かりません。ただ、中1からグノで英語を教わっていたので、段階を踏んで速読が身に付いたのは確かです。

中1、中2でも結構な量の英文を読めましたし、中3、高1でさらにギアが上がりました。高2のときには、担当していただいた先生に文法の課題を指摘してもらったことがあります。そこで、改めて細かな点も文法を意識して捉え直したことが、高3で伸びるきっかけになりました。総合的に一番伸びたのは高3でした。

僕は集中力がないので、藤川君のように短期間でグッと伸ばすのが苦手でした。だから、段階的に勉強する方法が合っていました。



中島 礼朗さん（文Ⅱ・栄光学園）



二宮 陽二郎さん（文Ⅲ・麻布）

英語の勉強法

二宮：僕の場合、日本史と世界史が0からのスタートで、とりあえずこの2科目をやらないといけないことは分かっていました。一方、「英数国が強い受験生が勝つ」とも思っていたので、英数国の基礎

をグノで固めて、地歴は足を引っ張らない程度まで上げるというプランを考えました。

すべての科目において、とにかく基礎、基礎、基礎の繰り返しでした。どんな問題でも時間が経つと忘れてしまうので、時間をおいて何度も何度も繰り返ししました。復習はとても大事です。復習に力を入れて、たくさんの問題に手を出さないようにしました。英語に関しても、グノで扱った問題を何度も振り返っていました。

中島：僕も復習が一番大事だと思います。復習のタイミングは早ければ早いほどいいです。

高2の冬頃に気がついたことがあるんです。授業で扱った英文の中で、先生の解説を覚えている部分は、間違いなく自分の力になっていました。それからは、記憶に残る部分を増やすため、授業の直後にその日の授業の復習をするようにしました。直後だと、先生の解説のほとんどを肉声で思い出せるしそれが定着します。英文全体が自分の養分になる感じでした。

毎日音読もしていましたが、よく理解できている英文の音読は効果がまるで違うと思います。力がついているという実感とともに、英語の成績も上がりました。

大宮：高3の読解の授業は毎回要約演習で始まります。私はそれまで要約をほとんどやったことがなかったのですが、この演習で学んだことは多かったです。

文章がどのように構成されているか、論旨がどのように組み立てられているかの解説を先生が毎回してくださって、それを参考に次の演習に取り組むうちに、論理力が鍛えられたと思います。夏は散々だった東大模試の要約も、秋以降は点数が安定するようになりました。

中山先生がよく「読書は対話。自然に抱く疑問を大切に」とおっしゃっていました。書かれていることに対して、「それってどういうこと？」と、こちらから疑問を抱くようにするんです。筆者が具体例などで説明を加えてくれていることもあるし、読み手側が自分の経験などに照らして解釈することもあります。先生の解説でも、よく「どういうこと？」とか、「たとえば？」という合いの手が入っていました。それを自分でも意識して勉強していたのが良かったんだと思います。

二宮：僕の場合も、グノで英語の読み方を学んだら国語の点数も伸びました。英語と日本語では論理の組み立てには違いがあるかもしれませんが、「この文章はこういう論理で書かれているから、こことここをつなげて記述する」というプロセスは共通です。東大は地歴も記述なので、論理力を鍛えることで全科目に効果がありました。

中島：他塾の解説では、よく「このパッセージではこれがキーセンテンス」とだけ言われたりします。納得できる説明がないと、「なんで？」と思うだけで僕たちの力にはなりません。

グノの先生は本当に深く英文を理解されていると思います。筆者がどんな考えで言葉を選び、文を組み立てているかの解説が丁寧です。論理をしっかりたどれると、「著者が伝えたいことをしっかり受けとめた」と実感できます。現代文の勉強にもつながりましたし、論理力という面言えば、全科目にいい影響があったと思います。

長井：僕の場合はとにかく、グノで扱った英文を繰り返し読み返していました。基本は、音読です。ただ、音読は疲れるので(笑)、ときどき黙読にしていましたけど、反復して読み返すことは徹底していました。

でも、黙読ばかりしていると、語彙の把握が適当だったり、文構造がよく分かっていなくても、速読できている気になって読み方が浅くなることがあります。

特に高3の授業では扱う英文の内容が深くなっていきましたから、何度も何度も英文を音読しました。授業で解説されていた単語の話や筆者の意図とか、いろんなことを思い出しながら声に出して読んでいたので、本当の意味で読むスピードもアップしたと思います。

藤川：母がピアノ教室をやっていて、僕も2歳からピアノを習っています。母はピアノを教えるときに、ゆっくり練習と速い練習を使い分けています。

ピアノは指を10本使うので、いちいち指の動かし方を考えては弾けません。でも、最初からそういう弾き方をしても、弾けるようにはなりません。だから、練習のときはゆっくり練習を取り入れます。ゆっくり練習はメンテナンスをします。僕自身がピアノを練習するときは、ゆっくり練習と速い練習とを2対1の割合で混ぜています。

このピアノでの練習法を、英語にも応用しました。文構造を完全に意識したゆっくり音読と速いペースで読む音読とを2対1の割合で混ぜたのです。高3になってからの英語の勉強は、これと英作文がメインで、他には全くやっていません。

白石：僕も音読を続けていましたが、高2でグノに入ってから、GSL*を使って音読はしているものの、字面を追って発声しているだけでした。

高3になってから、先生が改めて音読の重要性についてやり方や効果を語ってくださいました。そのときの話でようやく僕は「そうだったんだ」と納得できました。改めてやってみて、「音読はこんなに深かったのか」とびっくりしました。



藤川 司さん (文I・海城)

高3の夏は本当に音読しかしませんでした。僕にとっては、内容を意識しながらの音読は本当に難しく、いつのまにか暗唱できるくらいまで何回も繰り返していました。

* Gnable Sound Laboratory : 中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

熊谷：私は、以前から家でがんばる前に授業を大切にするタイプだったので、授業中にできるだけ吸収しようと集中していました。

グノは、集中力を保って主体的に聞ける授業だったのですごく気に入っていました。授業は先生が生徒とやり取りしながら、私たちを巻き込んで進んでいくので、自分が参加していると実感できました。間違っただけを言っても「大丈夫」と思える雰囲気があって、授業中はずっと楽しかったです。

復習のときは、GSLを活用していました。耳で聞くスピードで理解できれば読むスピードが上がりますし、シャドーイングをしていると速く喋る練習にもなって、とても効果的だと思っていました。

グノーブルの数学

二宮：数学は、一番下のクラスで受講しました。「こういう問題のときはこういう解法が」と先生が話してくださったり、テーマごとにまとめたプリントをいただけたりして、「初見の問題に出会ったときにどのツールで戦えばいいのか」という基礎を学びました。

夏以降は、テスト演習をしてすぐ解説されるという授業スタイルで、与えられる問題の量も、僕には合っていました。数学に関しては、友達からもらった参考書1冊を持っていましたが、基本的にグノからもらった教材だけを使いました。これだけで十分でした。

振り返ってみると、先生方が受験問題を本当によく研究されていたので、短期間に無駄のない問題に取り組み得点力もついたのだと思います。

長井：中1から^あ纒田先生にずっと教わっていました。纒田先生は、温かいし分かりやすいし楽しくて、基礎力や計算力を培う段階では最高でした。

高2、高3で長澤先生になると、楽しいだけではなく、厳しさも味わいました。それまでは、「文系だし何とかかな」という甘い考えを持っていましたが、「こんなじゃダメだ」と気持ちを切り替えました。

高2では、考えるのにも復習をするのにも、かなりの時間を数学に費やしました。

セルフチェックシートでは、先生に自分の状況を伝えて、先生からのコメントをいただけます。そのやり取りを通して自分の課題も明らかになりましたし、数学への理解も深まり、自分を客観視できるようになりました。

最終的には、数学に対しての自分の限界も知られることになりましたが、かなりの力も手にすることができたと思っています。

藤川：僕は中3からグノで数学をとりましたが、きっかけは長井君でした。数学で行き詰まったとき、長井君にグノの数学を勧められて受講を決めました。このときは纒田先生で、楽しく取り組みやすい授業のお陰で、数学も軌道にのりました。

高2からの長澤先生は厳しさが加わって、本気で数学と向き合っていく覚悟をしました。ただ、それでも高2のうちはまだ楽で、配られる問題は何とか解けて、人間の理解の範疇にありました(笑)。

高3になると、僕にとっては問題の凶悪度(笑)が格段に上がりました。水一滴もなしに砂漠を歩いている気分にもなりました。

ようやくオアシスにたどり着けたのは直前期でした。「結構簡単だ」と思いながら問題に向かえるようになってきて、東大入試本番も苦手な分野は出ましたが、長澤先生の授業に比べたら本当に簡単だと思えました。

長澤先生の授業は厳しかったのですが、感情的な意味で厳しかったわけでは全くありません。まず、「先生の言うことは確かだ」という先生への信頼が僕たちにありました。そして、授業の進め方、授業で扱っていく問題の選択、僕たちへの要求に、すべて筋が通っていました。筋が通っているからこそ厳しさが伴うのだと思います。

振り返ってみると、グノの数学を受けて間違いなく力がつきました。長澤先生は数学の生き字引みたいな人でしたから、「この問題の類題はありますか？」と要望を出せば、「これこれがある」とサッとプリントをいただけました。いつも柔軟に対応していただきました。

今年の東大は、問題自体が易化したこともありましたが、やはりグノの数学を受けてきたからこそ、気持ちに余裕を持って問題に向かえたのだと思います。



大宮 優香さん (文I・日比谷)



熊谷 姿慧さん (文I・桜蔭)

グノーブルの国語

熊谷：吉田先生にはとてもお世話になりました。留学していたこともあって、古文漢文がボロボロだった私に、とても親身に個別対応してくださいました。

授業の雰囲気も良かったです。「これはこうだ」と解釈を押し付けられることもなく、考え方や答案の書き方も分かりやすかったです。「自分のレベルでもベストを尽くせば書ける」と思える解答例は参考になりました。

藤川：グノの英語は受験英語に限定せず、将来を見据えたカリキュラムになっています。数学も、数学全体を包括的に考える授業でした。

一方、高1から3年間お世話になったグノの国語は、要素の抜き出し方や対比・例示の使い方など、特に東大受験のための戦法を重んじる印象を受けました。

でも、解説は決して一方的ではありませんし、添削もしっかりやっていただけて、そういうところは、他の科目と共通するグノらしさでした。特に添削では、「これでも大丈夫」「これではダメ」とキッチリ線引きしていただいたお陰で、国語における必要十分条件の満たし方を習得できました。

長井：僕は高3で東大国語を受講しました。その頃は現代文で壁にぶつかっていました。他塾での現代文の授業では「ここはこういう解釈だ」で終わりですが、そういう授業を受けても答案の導き方や書き方が全然分かりません。予備校が出している模範解答も、レベルが高すぎて、高校生の僕には真似できるものではありませんでした。

一方、吉田先生は本文に準拠して、高校生でも書ける答案の作り方を教えてくださいました。本文の解説も僕たちに大変分かりやすく工夫されていました。現代文の授業で初めて、「こういう授業を受けたかった」と満足感を覚えました。

大宮：高3の冬期講習と直前講習で東大国語を受講しました。グノの先生らしく吉田先生も初回で名前を覚えてくださいましたし、普段から受講している人たちと分け隔てなく指名してくださって、疎外感を感じずに授業を受けられました。

古文や漢文だと、場面をイメージしづらいことがよくありますが、吉田先生は登場人物になりきって、噛み砕いて説明してくださって、こういう解説の仕方もグノの英語に共通していて、楽しいし分かりやすいと思いました。

直前講習では、出題されそうな古語や句法などを教えてくださいだったり、現代文ならまとめるべき要素の見つけ方を教えてくださいだったりして、とても充実していました。

私の場合も、高校生が書けそうな解答例を示していただけただけことがとても参考になりました。

二宮：中学受験のとき、僕は国語を武器に戦っていました。もともと国語が得意だったんです。でも、留学先で英語だけの生活をしていたら、日本語が下手になってしまいました。帰国後に初めて受けた模試では、国語が30点くらい、古文に至っては3点でした。

そのことを吉田先生にお話ししたら、「古典はがんばらないといけないけれど、現代文は読めている。ただ、答えるべきことを文章にできなかったり、冗長になったりしている」というご指摘と、東大の国語の問題への具体的な対処法もアドバイスしていただきました。

解説はいつも明快で、「記述問題では本文のここからこう引っ張ってくる」、「センターではこうやって選択肢を切る」など、戦術的なお話もたくさんありました。豊富な具体例を駆使した本文の解説は、イメージがわきやすくて惹きつけられました。

僕は、吉田先生の模範解答はとても美しいと思っていました。文章から得られる情報を咀嚼して、誰でも分かる言葉で分かりやすい文になっていて、「すごい」と感銘を受けていました。



白石 昌大さん（文Ⅱ・芝）



長井 孝彦さん（文Ⅱ・海城）

グノーブルの先生方

二宮：先生方はしっかり研究されているなと思いました。どの科目も全体を俯瞰しつつ、個別の問題や設問への対処法についても熟知されているし、対策の立て方についても的確なアドバイスをいただきました。普段から研究を積み重ね、僕らのレベルに合わせて指導してくださった先生方に感謝しています。

大宮：まず言いたいのは、先生方がすぐに顔と名前を覚えてくださったことです。高2の冬期講習からグノに通い始めた私は、グノに通い続けている人たちに囲まれて、「ぼっち」みたいになるかな、と不安でした。でも、先生方のフレンドリーさのお陰でクラスの雰囲気にも馴染めました。

先生方が広くて深い教養をお持ちになっているのにも感動しました。英語の読解では、演習の時間には内容が全く分からない英文をいくつも扱いました。でも、中山先生が、「どこから出てくるのだろう？」と思うくらい豊富な知識を駆使して解説してくださると、難解な英文がとても楽しめる英文に

どんどん変わっていきました。文系理系を問わずいろいろな分野に精通していらっしやって、具体例も分かりやすく、本当に驚きでした。

冬期講習と直前講習で出会った吉田先生も、とても広い教養をお持ちで、私たちに分かりやすく解説をしてくださいました。

グノの先生方に出会うまでは、私はただ受験のためだけに勉強してきました。でも、グノに入って、「こういう大人になりたい」と、勉強の動機も変わりました。大学入学後、文系理系に捕らわれずいろいろな分野に興味を持って勉強したいと思っています。

長井：大手と大きく違うのは、グノでしか味わえないライブ感です。生徒目線というか生徒思いというか、そうした熱いものが先生方にはあって、それをひしひしと感じました。

中島：確かに、先生の熱量がすごいです。熱量というのは、声が大きいか、そういうことではなくて、「愛」とか「期待」ということだと思います。

たとえば、本原先生は静かに授業をなさるのですが、その中に僕たちへの思いがこもっていて、そういう授業を受けると「僕も全力で応えなければならない」と気持ちが高まります。

先生方は本当に教養にあふれていましたが、そういう先生方が全力で授業をしてくださる姿勢がとても魅力的でした。僕も「こういう大人になりたい」と心から思いましたし、10代の間にグノで授業を受けられて幸せでした。

藤川：グノは、いい意味で一般的な塾の授業とかけ離れています。授業では発展的なことばかりやるのではなく、基礎にも面白みのふりかけをかけて、僕たちに提供してくれます。英語だと、つい数日前の出来事が教材になっていることもよくあって、それは新鮮さのふりかけって感じです。

僕たちが興味を持てる教材をいつも用意してくださることに、先生との近さは表れていますが、もちろん、毎回の添削や質問のしやすさなどにもそれが表れています。

グノの先生と生徒の距離は近いと言われますが、それはなれ合いの近さではありません。グノの先生は生徒に敬意を持って接してくれます。もちろん、僕たちも先生を尊敬しています。それにプラスして、学問への興味が土台になっているので、いい意味での節度があります。

熊谷：英語の授業では、英文に関連した美術や哲学の話を紹介していただいたり、さりげなく有名な小説の一節が聞けたり、とにかく、たくさん知的な刺激を受けました。

それから、大学受験の予備校だと、尊大だったり高圧的だったりする先生も見かけるのですが、グノの先生方は本当に人柄が良く、安心して勉強に没頭できました。理不尽に怒ることはけっしてなく、いつも優しく接してくださいました。

白石：そもそも、授業の場で演習したものを、先生自らがすぐに添削して返却してくださるシステム自体すごいです。先生方がいつも僕たちのことをよく見てくださっていることをありがたいと思っていました。

だからこそ、英作文で出来がいいときに、“Very Good”と書いていただけると本当にうれしくて、僕はそういうプリントをファイリングしていました。

要約でどんなに出来が悪いときでも、次回に希望を持てるコメントを書いてもらえると、かえってやる気が湧いてきました。

僕の中では、先生との実際のお喋りよりも、添削を通して先生を近しく感じていました。

後輩へのメッセージ

白石：高3のとき、毎週、英作文を提出する課題がありました。僕は前半は張り切って出しましたが、後半の途中、出せずにたまってしまったことがありました。たまっていくとやる気が失せて、出すべき課題がさらにたまりがちです。この経験から言えるのは、「やるべきことはすぐにやった方がいい」ということです。

ちなみに、英作文のストックがあると本番でも役立ちます。自分が書いた英作文が別の問題で参考になるのです。僕の場合も、今年の東大入試の英作文は、過去に書いたものを流用しました。時間短縮になって良かったです。

熊谷：受験戦術的には、英語をできるようにしておくことが有利です。地歴は高3で伸ばすものですが、数学は問題によって点数がぶれがちです。英語は早めに取り組めますし、一度点数が取れるようになるとぶれないので、精神的な安心にもつながります。

英語はグノでしっかり勉強して得点源にしておくことが大切です。グノの授業とその復習だけで大丈夫です。

大宮：私も、英語はグノだけで大丈夫だと思います。

東大受験生の多くは、併願の私立を気にします。「私立の英語は、内容が学部専門分野で難しいか



中島 礼朗さん（文Ⅱ・栄光学園）



二宮 陽二郎さん（文Ⅲ・麻布）

ら過去問もやらなきゃ」と焦るかもしれません。でも、グノで難しい英語を読むのに慣れておけば、直前に過去問を2、3年分解いて形式を見ておくだけでも十分です。

東大の対策に関してですが、私の場合、グノの授業でやるリスニングが難しかったので、少し苦手意識がありました。でも、その難度で練習していると、東大のリスニングは案外楽に聞き取れます。ちなみに、私は、東大の過去問も4、5年分しか解いていません。「グノをやっていれば大丈夫」という確信があったので、25年分の過去問などにこだわらずに済みました。

中島：とにかくグノを信じるが一番です。グノの英語では、受験生の必須アイテムである単語帳を使いません。そのため、不安になることもあるかもしれません。でも、グノを信じてついていけば、確実に英語力が付くし、その英語力があれば東大も攻略できます。余計な勉強は一切要りません。僕も、市販の単語帳は一度も使っていませんし、英語の参考書も一冊も買っていない。実は、過去問もほとんどやっていません。

藤川：英語だけでなく数学や国語も、グノの先生が「これをやってごらん」ということを本気でやるだけで、それで問題ありません。先生の言うことをかっちりやって、3科目以外の社会は自分で何とかする、という基本戦略で東大受験を勝ち抜けます。

グノは先生方や環境が最高です。大船に乗った気持ちで勉強を続けてほしいと思います。

ただ、いくら最高の先生方や環境に恵まれても、自分の意志と努力がなければダメだということは忘れないでほしいと思います。

長井：僕も、グノの先生のおっしゃることに真摯に取り組めば、必ず成果が出ると思います。先生方は何度も受験を見てきています。その経験に基づいたアドバイスは的確ですし、それを信じて取り組みれば合格にもつながります。

二宮：東大を志望する受験生の中には、ひねくれて構えて、先生方のアドバイスを信用しない人たちがいます。僕の場合は、「グノーブルを信じよう」と自分に言い聞かせました。

クラスのレベルも気にしていませんでした。僕はずっと下の方のクラスにいましたが、クラスレベルにかかわらず、グノーブルは全体的にとっても知的で活発なところです。

毎回、ハイレベルな授業を受けられたし、飽きることのない勉強ができました。前向きに取り組んでいれば間違いはないと考えるようにしていました。

まずは基礎に忠実に、そして先生方を信じて復習を続けたら、結果もついてきたんです。

僕は、帰国後最初に受けた2つの東大模試がどちらもE判定で、東大受験を諦めかけていました。でも、グノーブルの先生方を信頼して、出された教材に真摯に取り組み続けたら、英数国が着実に伸びました。メンタルさえあれば逆境も乗り越えられます。半年間の勉強で東大受験するのは賭けでしたが、とてもいい挑戦になりました。



藤川 司さん（文Ⅰ・海城）